北斎館（仮称）建設計画の前提・背景

■立地的背景

○北斎生誕の地

→北斎は「すみだ」の重要な財産

○江戸時代以来の庶民文化発祥の地

→北斎を街のアイデンティティーのシンボルとして地域を活性化

○新タワー誘致

→年間300万人の集客（※）が見込まれ、これらの人々の周遊を可能にする各拠点の　整備によって、さらなる経済波及効果が望まれる。

（※）第一生命経済研究所発表

■新たな社会の潮流

少子高齢化の進行による社会構造の変化や、成熟社会の到来に伴い、生活者の価値観やライフスタイルの多様化が進んでいる。

また、「ものの豊かさから心の豊かさ」へといった、精神的なものや文化的なものへの興味や関心が高く、生涯学習へのニーズも高まっている。

■区の上位計画

新しい『墨田区基本構想』に描かれた「すみだ」の将来の姿を、区民、事業者、区の協働によって実現するため、最上位の総合計画として『墨田区基本計画』が策定された（平成18年12月）。

この計画の基本目標の一つとして、“「すみだ」らしさの息づくまちをつくる”ことが掲げられ、この目標を達成するために、世界的に評価の高い北斎ゆかりの地として、地域文化の継承と発展の場かつ内外への情報発信の場となる、北斎館（仮称）の建設がリーディングプロジェクトとして明示されている。

北斎館（仮称）の設置

○北斎の作品は、国内外の芸術家に大きな影響を与え、国内のみならず、海外においても評価が高い。

○平成11年（1999年）に米『ライフ』誌が行ったアンケート「この1000年間でもっとも偉大な業績を残した100人」の中で、日本人として、ただ一人選ばれた。

○平成17年（2005年）東京国立博物館で開催された「北斎展」では会期中、332,939人もの多くの来館者を集めた。

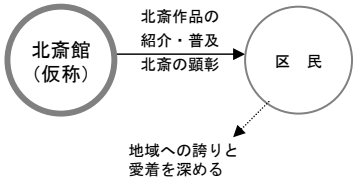
○北斎に限らず、浮世絵の人気は近年高まりつつあり、各地に浮世絵をテーマとした美術館が造られ、また、全国で様々な浮世絵をテーマとする企画展が開催されている。

○平成17年（2005年）中に国内で開催された北斎の作品を含む浮世絵による企画展は30近くに及ぶ。（WEB調査による）

事業の目的

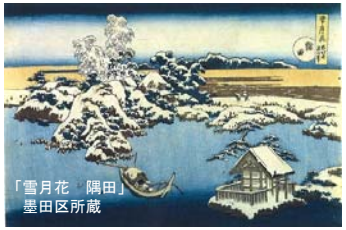
■北斎顕彰を通じて地域に愛着を深める場

北斎生誕の地として、その芸術の紹介や普及に貢献するとともに、北斎の顕彰を通じて、区民に地域への誇りと愛着を深めてもらう。



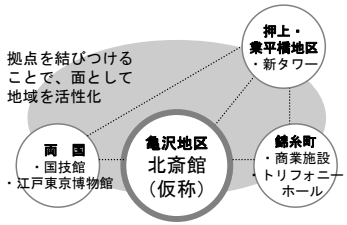
■区民の生涯学習の場

優れた美術作品を鑑賞し、学ぶ機会を提供することにより、区民の生涯学習活動を支援し、より豊かな区民の生活に寄与する。



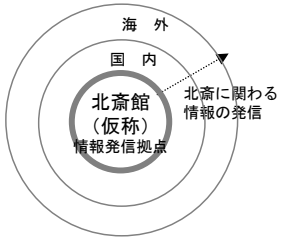
■地域活性化の拠点（観光、産業への寄与）

新タワー等の各拠点と連携することにより、点から線へ、面へと地域を活性化する文化拠点とする。



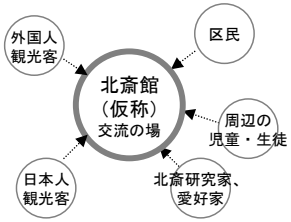
■国内外に向けての情報の発信

北斎をテーマとした情報を、国内外に発信する。



■国内外の交流の場

日本文化を代表する芸術作品を展示紹介することにより、国内外の多くの来館者を出迎え、区民との交流の場とする。



美術館としての整備の方向性

■調査研究を重視

・北斎生誕の地にできる美術館として、また、『北斎研究』の発行等の活動により、国内外から北斎館（仮称）への期待が高まっている。高名な研究者から既に譲り受けた作品等を含め、北斎に関する調査研究に重点を置くことで、これらの国際的な信頼に応え、北斎に関わる権威ある美術館として充実を図る。

・地道な調査研究によって、国内外の北斎研究の基本となるデータベースを作成する。また、研究成果を展示事業に活かすことで、常に新しい北斎像を提供するとともに、一般の方々にも北斎の作品をわかりやすく伝える。これが施設の魅力となり、集客へと結びつくことになる。

■地域に愛される息の長い施設づくり

・地域住民とのつながりを深める
・集客に結びつく斬新な企画を提供する
・効率的な運営をめざす

基本理念

地域へ、世界へと情報を発信する北斎研究の拠点となる美術館

北斎館（仮称）のめざす姿

◇北斎に対する国際的な認識の高さに応えられる調査研究を重視した美術館
◇研究の成果に基づく新しい北斎像を展示で紹介する、魅力的で、集客力のある美術館

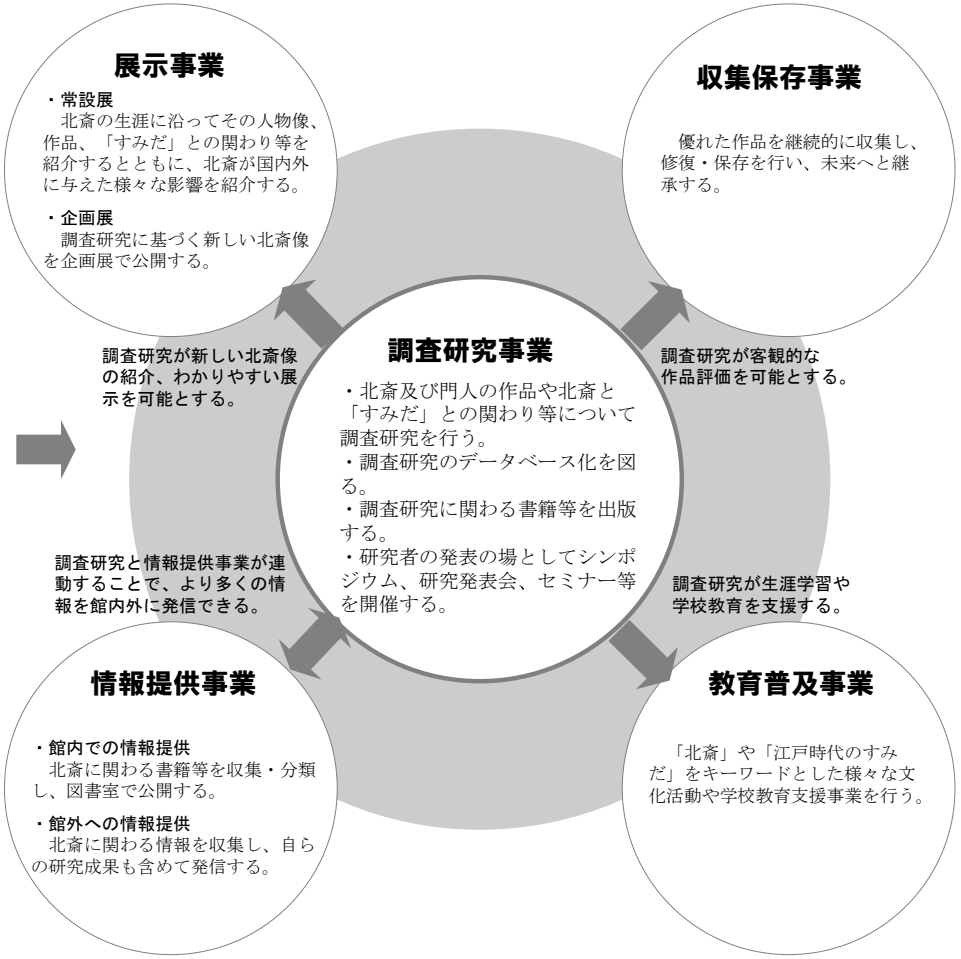
ターゲットと目標観覧者数

■ターゲット
・区民
・周辺の児童・生徒等（学校等）
・北斎研究家、愛好家
・国内外の観光客

■年間目標観覧者数
・10万人～12万人

事業の展開

北斎館（仮称）では、調査研究が全ての事業の根幹となる。



管理運営・来館者サービス事業

施設の円滑な管理運営を行うとともに、来館者に「もてなしの心」を感じてもらうことができる各種サービスを提供する。

情報システム

北斎作品に関わるデータベースや、北斎情報を館内外に発信する情報システムを構築する。

1. 調査研究実施計画

1-1　調査研究事業の概要

北斎館（仮称）における調査研究事業は、全ての事業の根幹となる。その展開は、以下のとおりである。

○北斎及び門人の作品や北斎と「すみだ」との関わり等について、調査研究を行う
○調査研究のデータベース化を図る。
○調査研究に関わる書籍等を出版する。
○研究者の発表の場としてシンポジウム、研究発表会、セミナー等を開催する。

1-2　調査研究内容

次の内容の調査研究を継続的に行っていく。

■北斎総作品目録の集積に関わる調査研究

北斎の肉筆画、版本、版画の総作品の目録である「レゾネド・カタログ」作成のための調査研究を行う。また、著名な北斎研究者（故楢崎宗重氏、故ピーター・モース氏、ロジャー・キーズ氏）からの移譲資料についての調査研究を行う。

■北斎と「すみだ」との関わりについての調査研究

北斎と「すみだ」との関わりについて、郷土史分野との共同研究を推進する。

■資料の調査研究

北斎に関わる書簡・日記等の活字化された資料から、北斎の活動についての調査研究を行う。

■人脈の調査研究

北斎につながる人脈や関連する人物の資料から、北斎の活動についての調査研究を行う。

■門人の調査研究

北斎の門人に関わる調査研究を行う。

■文献目録・研究文献の調査

北斎に関わる文献を調査し目録を整備するとともに、研究文献の調査を行う。

■学史研究

北斎の調査研究に携わった研究者の業績や研究の系譜について、調査研究する。

1-3　調査研究データベースの作成

上記の調査研究をもとに、北斎に関わるデータベースを作成する。データベースは、印刷物及びデジタルデータで整備する。このデータベースが北斎館（仮称）の調査研究の根幹である「レゾネド・カタログ」となる。

1-4　研究成果の発表

■研究誌の出版　調査研究により発見された新事実等をもとに、『北斎研究』を年に2回出版する。
■年譜の作成　蓄積されたデータをもとに年譜を作成する。
■門人録　門人の人名事典を作成する。
■研究文献目録　北斎研究に関わる文献の目録を作成する。この研究経過は『北斎研究』『墨田北斎研究叢書』で発表する。

1-5　その他

■研究者の発表・交流の場の提供

研究者の発表の場として、また、交流の場としてシンポジウム、研究発表会、セミナー等を開催する。

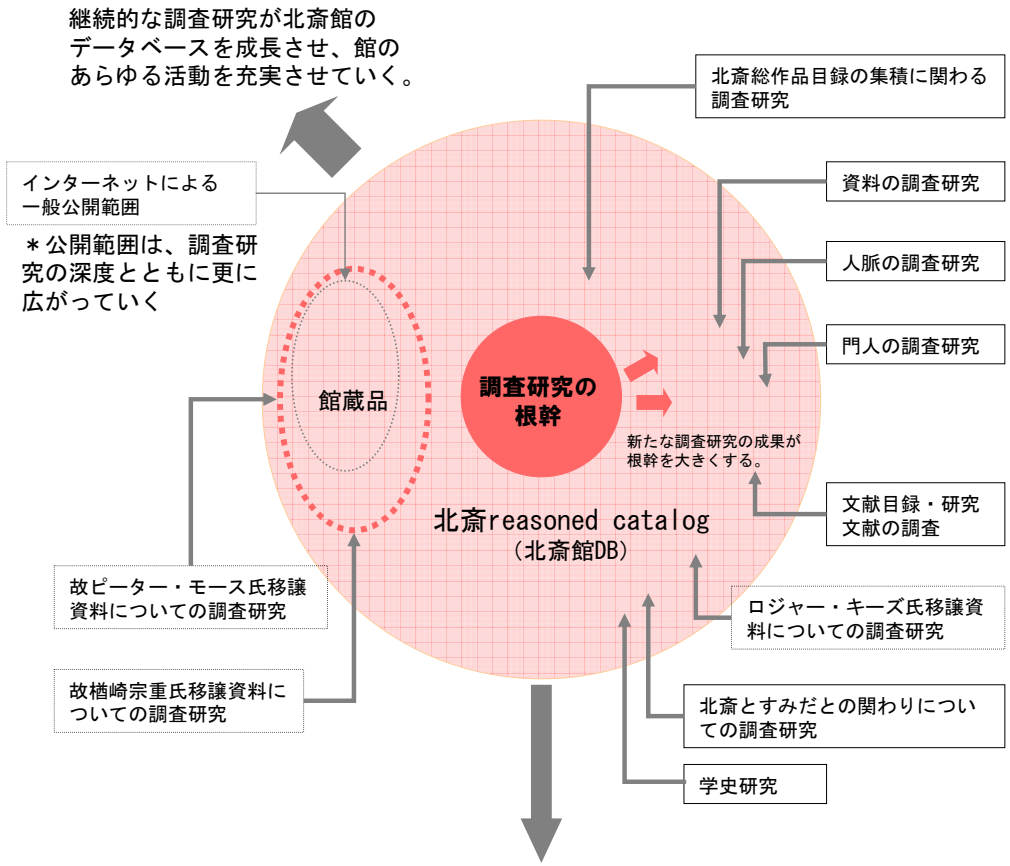
■優秀な研究者のノウハウを活用

○海外顧問を選任し、定期的に海外の調査研究に関わる情報の提供を受ける。
○専門分野に特化した客員研究員を招聘し、調査研究の支援を受ける。

■他の機関との連携

○国内外の博物館や美術館と連携し、情報の提供を受ける。また、展示の共同開催も検討する。
○国内外の大学や研究機関と連携し、情報の提供を受ける。

1-6　調査研究に関わる概念図



館の活動との連携

■調査研究事業	・研究誌『北斎研究』での発表
	・年譜、門人録、研究文献目録等の作成
	・シンポジウム、研究発表会、セミナーでの発表
■展示事業	・常設展での活用
	・企画展での活用
■収集保存事業	・客観的な作品評価の指針として活用
■情報サービス事業	・データベースの一部を一般に公開
■教育普及事業	・教育普及事業ツールの開発に活用

1-7　調査研究項目と進め方について

■北斎総作品目録集積に関わる調査研究

北斎総作品目録の集積に関わる調査研究は、以下のように進める。また、調査研究により集められた情報をもとに、北斎館（仮称）レゾネド・カタログ（データベース）を充実させる。この調査研究項目には、継続的に取組む。

○故ピーター・モース氏移譲資料についての調査研究

本移譲資料については、下記のスケジュールで調査研究に取り組んでいる。

・平成18年度・・・図録に記載する図版の選択及び整理・撮影
・平成19年度・・・図版の整理・撮影、図録作成用原稿作成（学芸員及び外部専門研究者が執筆）
・平成20年度・・・図録の編集・出版

これらの資料をもとに、公開も視野に入れたデータベースを平成21年度に整備し、開館に備える。

○故楢崎宗重氏移譲資料についての調査研究

本資料のうち、主要作品については、既に調査研究が終了し、平成17年には図録を出版している。今後は、公開も視野に入れたデータベースを平成20年度に整備し、開館に備える。

その他の研究資料、原稿類についても開館後、順次整理を進め、公開・活用に努める。

○ロジャー・キーズ氏移譲資料についての調査研究

本資料は、故ピーター・モース氏との共同作業で進められてきた北斎に関するレゾネド・カタログ作成のための基礎資料である。現時点では、当該資料が、英文表記であること等から、全ての内容確認が終了していないため、平成19年度から優先的に、内容確認と精査に取り組む。

○インターネット等による調査研究

・インターネットを定期的にキーワード検索することにより、最新の北斎の情報を収集し、分類保管の上、分析する。

■北斎の人物像や「すみだ」との関わりについての調査研究

平成18年度より、北斎と「すみだ」との関わりについて、郷土史研究者の協力を得て、調査研究を進めている。

この調査研究項目は、常設展示室での展示内容の一部とするため、平成20年度中に一定の成果を示すものとする。

また、開館後も継続的に調査研究を行い、最新の研究成果は『北斎研究』や研究発表会で公開するとともに、企画展や常設展の更新に活用する。

■資料の調査研究

開館前は、展示のコンテンツに関わる資料を中心とした調査研究を進める。開館後も継続的に取組んでいく。

■人脈の調査研究

開館前は、展示のコンテンツに関わる資料を中心とした調査研究を進める。開館後も継続的に取組んでいく。

■門人の調査研究

開館前は、展示のコンテンツに関わる資料を中心とした調査研究を進める。開館後も継続的に取組んでいく。

■文献目録・研究文献の調査

現在進めている収蔵図書の目録作りをベースに、継続的に調査を進め、進展させる。

■学史研究（北斎研究史の整理）

北斎の調査研究に携わった主な研究者は、以下のとおりである。この調査研究項目は、常設展示室での展示内容の一部とするため、平成20年度中に一定の成果を示すものとする。

また、開館後も継続的に調査研究を行い、最新の研究成果は『北斎研究』や研究発表会で公開するとともに、企画展や常設展の更新に活用する。

○飯島虚心・・・浮世絵研究の先駆者。北斎研究の基礎文献である『葛飾北斎伝』を著わす。
○鈴木重三・・・江戸文学研究・書誌学的な視点から、北斎研究に新たな光を当て、重要な指摘を行う。　『葛飾北斎伝』を校訂。
○永井荷風・・・1913年、三田文学に『北斎年譜』執筆。
○楢崎宗重・・・近年の北斎研究第一人者。『北斎論』で従来の研究を集大成し、北斎の芸術・研究の概要を明確にする。北斎芸術の社会への紹介にも大きく貢献。
○安田剛蔵・・・『画狂北斎』を執筆。新たな視点からの北斎研究を試みた。
○桑原羊次郎・・・浮世絵、彫金等美術工芸の研究家として著名。
○井上和雄・・・北斎年表を執筆。
○福本和夫・・・マルクス主義を基本的なフィールドとして、カラクリ研究、フクロウ文化史、北斎論、辞書論等幅広く研究を行った。
○織田一磨・・・石版画家で、北斎の研究者としても知られる。
○ルイ・ゴンス・・ジャポニスム運動の中心にあった雑誌『ガゼット・デ・ボザール』の編集長で『日本美術』を出版。
○ゴンクール・・・林忠正の協力を得て、『北斎』を執筆し、フランスに日本美術ブームを起こす。
○ピーター・モース、ロジャー・キーズ・・・世界中の諸機関、収集家を訪ねて、北斎作品のデータを収集し、研究の基礎となるレゾネド・カタログの作成に早くから着手し、北斎研究の推進に大きく貢献。

■企画展に関わる調査研究

北斎館（仮称）では、短くとも2年先までを視野に入れて企画展の検討を行うこととする。本来は通常行っている調査研究に基づき企画展を検討するが、開館までの期間が短いことから、調査研究ストックが十分ではないことが想定される。従って、当初は調査研究の進展も視野に入れながら、企画展のテーマを設定し、それに必要な調査研究も平行して進める。

■フィールド・サーベイ（実地調査）

開館後、必要に応じて、館外での調査を実施する。その展開例は以下のとおりである。

○北斎の旅行先の調査・・・地元の教育委員会との共同調査等
○資料調査・・・新資料発見に伴う現地調査等

1-8　海外顧問について

■対象となる人材

欧米における、北斎に関する調査研究実績が豊富な研究者とする。

■海外顧問の役割

○メール等による海外の調査研究情報の提供
○共同研究者としての協力
○北斎館（仮称）が出版する書籍（『北斎研究』）等への執筆協力
○北斎館（仮称）で主催のシンポジウム等への出席
○北斎館（仮称）の媒体における海外顧問としての氏名の表記
○海外における北斎館（仮称）のPR（館の名刺の配布等）

1-9　客員研究員制度について

■対象となる人材

専門分野に特化した調査研究の実績豊富な研究者とする。

■客員研究員の役割

北斎館（仮称）が委託する専門分野について、定められた期限内に調査研究を行い、報告書を取りまとめる。

■雇用形態等

○区の指示に基づき、館の運営主体となる機関が直接採用する。
○雇用の形態は、非常勤職員に準ずる。
○雇用期間は、原則1年とする。
○雇用された研究者は、事前に取り決めた賃金や勤務体系で、定められた勤務地で調査研究を行う。

■備考

○客員研究員は、必要に応じて雇用する。
（例）次年度の企画展に向けて、専門的な調査研究が必要になる場合。
○客員研究員の雇用は、今後検討する調査研究中長期計画に基づき行う。

1-10　コーディネーターについて

■コーディネーターの必要性

北斎館（仮称）の調査研究事業の推進にあたっては、海外の研究機関や博物館等との様々な調整が必要となる。そこで、各種の調整を効率的に進めていくためには、コーディネーターの活用が求められる。

■コーディネーターの役割

○海外の研究機関や博物館等への連絡、調整、交渉業務
○上記の業務に必要となるメールや書簡等の翻訳業務
○北斎館（仮称）主催のシンポジウム等での通訳業務
○国際法務等の専門的な人材の紹介業務

■対象となる人材

○類似事例のコーディネーターとして専業者が存在するので、その中から適任者を選任する。

2. 収集保存実施計画

2-1　収集保存事業の役割

○優れた資料を継続的に収集し、修復・保存を行い、未来へと継承する。

2-2　収集保存事業の概要

■現在の主な収蔵資料

○故楢崎宗重コレクション

浮世絵版画、日本及び中国の古美術、近代絵画等480点。うち北斎作品は7点。

○故ピーター・モース・コレクション

北斎版画等544点。北斎研究の蔵書約3,000点。

○ロジャー・キーズ氏資料

浮世絵研究資料として、書籍約4,000点、写真類約75,000点。

○その他

北斎及び門人の版本・版画（摺物等を含む）、肉筆画等の約650点。

■資料の収集方針

資料収集委員会（平成元年度設置）での調査検討をもとに、積極的に資料の収集に取り組む。

■作品の収集

○収集対象

北斎の作品、門人の作品、北斎や門人の遺品等

○収集の分野

版本・版画（摺物等を含む）、肉筆画等

○収集の目標

国際的な期待に応えることができる状態が良く質の高い作品、テーマ展が開催可能な作品を収集する。

■作品以外の収集

○収集の対象

北斎関連書籍、研究資料

その他北斎館（仮称）の展示方針に合致した優れた作品や資料

■保存

素材の特質に応じて、常に良好な環境で保存する。

2-3　開館時に向けての収集計画

■短期間で展示替えが可能な作品数の確保が急務

○浮世絵は脆弱で長期の展示は不可能である。資料の劣化を防ぐためには、短期間で展示替えが必要となり、そのためにはより多くの作品を収蔵することが必要となる。

○開館に向けては、企画展を充実させることを目的として、北斎館資料取得基金（平成元年度設置：基金額１億円）を活用し、円滑かつ効率的に資料収集を行う。

■寄贈資料について

○北斎館（仮称）建設計画の進捗に伴い、資料の寄贈の申し出を受ける可能性がある。その際には、必ず資料収集委員会での調査検討を経て、館にふさわしい資料のみを受け入れる。

○寄贈者については、館内で名前を掲示する場を設ける。また、図録の作成においては、寄贈者の名前を記載する。

※寄贈者の承諾がある場合

■寄託資料について

○寄託の申し出があったときは、資料収集委員会で調査検討を行い、適当と認めたときに受け入れる。

○寄託資料の保管経費は、北斎館（仮称）が負担する。

○北斎館（仮称）は、寄託資料を展示・調査研究等に利用できるものとする。

○寄託資料の他館への貸出しは、あらかじめ所有者の承諾を得るものとする。

○寄託品を展示するときには、寄託者名を明記する。また、図録にも明記する。

※寄託者の承諾がある場合

2-4　中長期収集計画

○北斎館（仮称）が長期にわたり、魅力的な展示を提供し集客を図るために、開館後も継続的に資料収集に取り組む。

2-5　資料保存の考え方

■資料を保存するための収蔵環境について

この項は、独立行政法人文化財研究所・東京文化財研究所名誉研究員見城敏子氏による研究レポートに基づき作成した。

○収蔵庫の保存環境について

・できるだけ外界の影響を遮断するために、人の出入りを少なくし、かつ出入りの際の外気の侵入を避けるため、二重扉か前室を設ける。

・外壁は、外気温が大きく変化しても、庫内の温度変化が極めて小さくすることで、湿度変化を小さくする。庫内の内装材に吸放湿性の良い内装材を使用し、調湿をよくして湿度変化を小さくする。これにより空調を利用してもその運転費が節約される。

・資料の側で温湿度の異なる気流があると資料の劣化が促進されることから、空調の風速はなるべく小さくし、資料に直接風が当たらないように、吹き出し口、吸い込み口の位置に充分配慮する。

・火災への対応として、天井面に付けた煙感知器が自動的に管理部門に通報するとともに消防署に連絡するシステムを設置することが望ましい。

○収蔵庫での収蔵方法

資料の大きさを考えると、個別資料別に木の引き出しを作り、それを保存箱として収蔵することが望ましい。また、材料には温度の急変に伴う、吸放湿の速度が速い、桐、杉、桧等の比重の軽い素材が望ましい。

＊木質素材の場合、ヤニ対策を検討する。

また、資料を柔軟性のある紙か布で包んで、引き出しに収納するものとする。

○展示について

・北斎館（仮称）では、実物作品の展示は主に企画展で行い、また、その期間を短くすることで劣化を極力防ぐこととする。

・展示室の温度が急激に変化しても、ケース内が一定の湿度を保つことができるよう、エアタイトケースを採用する。

・額縁については、今後、海外の博物館の事例をもとに研究を行い、最新の機能を持ったものとする。

■保存・展示環境のクリニーングについて

○空調フィルターの清掃

空調フィルターに虫の卵が産みつけられることが多いため、フィルターの清掃を適時行う。

○収蔵庫内等の清掃

適時、収蔵庫内の内壁、棚、引き出し、床等についてプロピレングリコールを主剤としたクリーニング液を用いて清掃し粉塵を除去する。

■その他

○出入庫管理

収蔵庫への職員並びに資料の出入りについては、全てパソコンで状況の管理を行う。

○資料保存についての学習

館員の資料保存や資料の取り扱いについての知識向上を図るために、学芸員による講習を適時行う。

2-6　修復について

■開館前の修復について

○修復費用

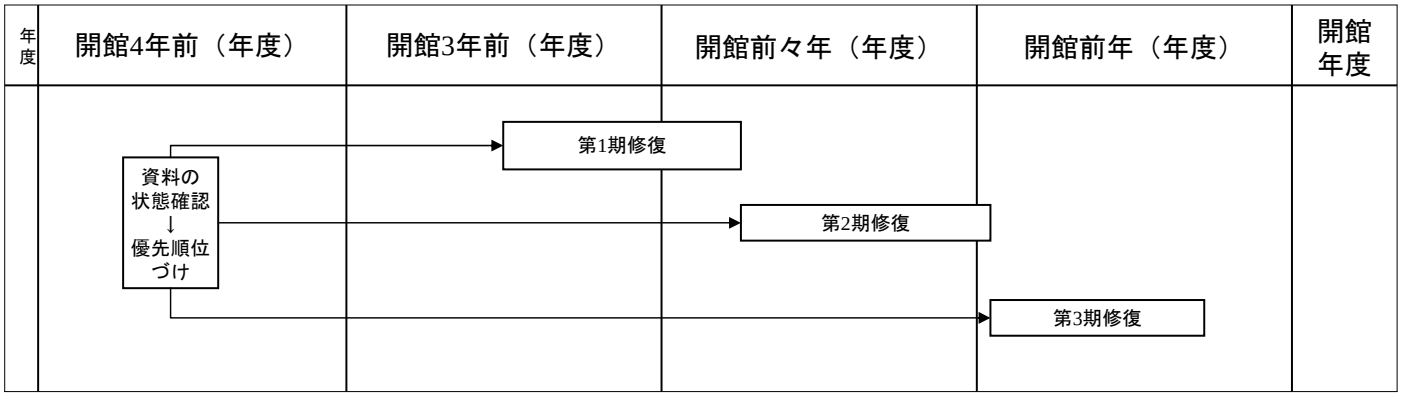
開館前の修復に関わる費用は、年間300万円程度と見込む。

○修復方法

資料の劣化状況に合わせた計画的な本格修復については外部専門家に委託する。

○修復スケジュール

開館に向けての修復の作業手順は、以下のとおりである。



・資料の状態を確認し、修復に関する優先順位を付けていく。優先するのは、開館時に展示を行う可能性が高い北斎作品で、コンディションが悪いものである。次に、開館時の展示に用いる門人作品、また開館初年度の企画展で使用する作品である。

■開館後の修復について

○中長期計画に立脚した修復計画の検討

開館後も計画的に修復を進める。そのために、開館後2～3年の企画展を視野に入れた中長期計画を今後検討する。

3. 展示実施計画

3-1　展示事業の概要

■常設展示

北斎の生涯に沿ってその人物像・作品・門人との関わりを紹介するとともに、北斎が国内外に与えた様々な影響や研究史等を紹介する。

■企画展示

調査研究の成果に基づく、新しい北斎像を企画展で公開する。

3-2　展示方針

■調査研究により成長する美術館の創造

固定的な展示を行う美術館ではなく、調査研究の成果を活かすことにより、常に新しい北斎像や北斎作品を発見できる、成長する美術館を創造する。

○北斎ライブ・ミュージアム（常設展示）

・常設展は、常に新しい北斎像や作品解説等を提供する場と位置づける。
・来館者が、北斎やその作品について多様な興味・関心を抱くことができるよう、多角的な視点で紹介する。
・今までにない斬新な演出を恒常的に行うために、実物作品に匹敵する、高精細画像の原寸大のレプリカ（複製資料）を中心に、照明・音響・映像を効果的に用いるとともに、最新の展示手法等を導入して、新たな北斎像を演出する。
・展示が平板にならないよう、立体的な手法を取り入れる等の工夫を凝らす。
・更新性や可変性に富む展示手法を導入する。

○クローズ・アップ北斎（企画展示）

・企画展示では、調査研究により明らかになった北斎像や作品について、絞り込まれたテーマに焦点をあてた深まりのある展示を行う。
・実物作品にこだわった展示を行う。
・様々な企画展に対応できる、可変性に富む空間を設置する。
・年間10回程度の開催を見込む。

■相乗効果による魅力度の向上

前記のとおり、北斎館（仮称）では、2つの異なる展示室があり、それぞれの特徴を際立たせることで、施設の魅力が向上し、美術館の新しい楽しみ方を提供できる。

3-3　展示室の位置づけ

■基本理念

地域へ、世界へと情報を発信する
北斎研究の拠点となる美術館

北斎館（仮称）のめざす姿
◇北斎に対する国際的な認識の高さに応えられる調査研究を重視した美術館
◇研究の成果に基づく新しい北斎像を展示で紹介する、魅力的で集客力のある美術館

↓

調査研究により明らかになる北斎像や作品等

↓ 展示の更新・刷新　　↓ 新事実を詳細に展示化

■展示コンセプト

常設展示
北斎ライブ・ミュージアム
常に新しい北斎像や作品解説等を提供する、ライブな展示。

相乗効果

企画展示
クローズ・アップ北斎
新しい発見に焦点をあてた、深まりのある展示。

■展示室の特徴

・常に新しさが感じられる展示
・多角的な視点での展示
・研究の成果を一望できる展示と北斎の生涯を辿ることのできる展示
・本物に匹敵するレプリカ（複製資料）と最新の展示手法による新たな北斎像の演出
・立体的な展示
・更新性、可変性に富む展示

・絞り込まれたテーマに焦点をあてた深まりのある展示
・本物にこだわった展示
・年に10回の新しい発見がある企画

↓

魅力度の向上
美術館の新しい楽しみ方を提供

3-4　常設展示の展開

■調査研究の成果を一望できる展示

北斎の全作品に関わる調査研究の成果を一望できる「北斎レゾネド・カタログ（仮称）」を展示の中心に据える。

■北斎の生涯に基づく展示

北斎はその90歳に及ぶ永い人生の間に、変化に富んだ画歴を持ち、常に新たな画法を探り、画風を変化させ続けている。手がけた分野も広範囲に及び、その生涯や活動は幅広く複雑である。

常設展示においては、この多様で複雑な北斎の活動を、以下のような時代区分で「北斎ライフ・スケール（仮称）」とし、**北斎の生涯と人物像、北斎の作品、北斎を取り巻く文化的背景、北斎が受けた影響、北斎を取り巻く人々**を紹介する。

1. 向島で過ごした幼少年の時代―絵師になるまで
宝暦10年（1760）ー安永7年（1778）頃　数えで1歳ー19歳頃。

2. 浮世絵師としての出発―習作の時代
安永8年（1779）頃ー寛政6年（1794）頃　20歳頃から35歳頃。

3. 琳派の絵師俵屋宗理から独立へ
寛政7年頃ー享和3年（1803）頃　36歳頃から44歳頃

4. 読本挿絵と肉筆画の時代
文化元年頃ー文化8年（1811）頃　45歳頃から52歳頃

5. 絵手本の時代
文化9年（1812）頃ー文政12年頃　53歳頃から70歳頃

6. 錦絵の時代-風景版画と多彩な作品群
天保元年（1830）頃ー同4年（1833）頃　71歳頃から74歳頃

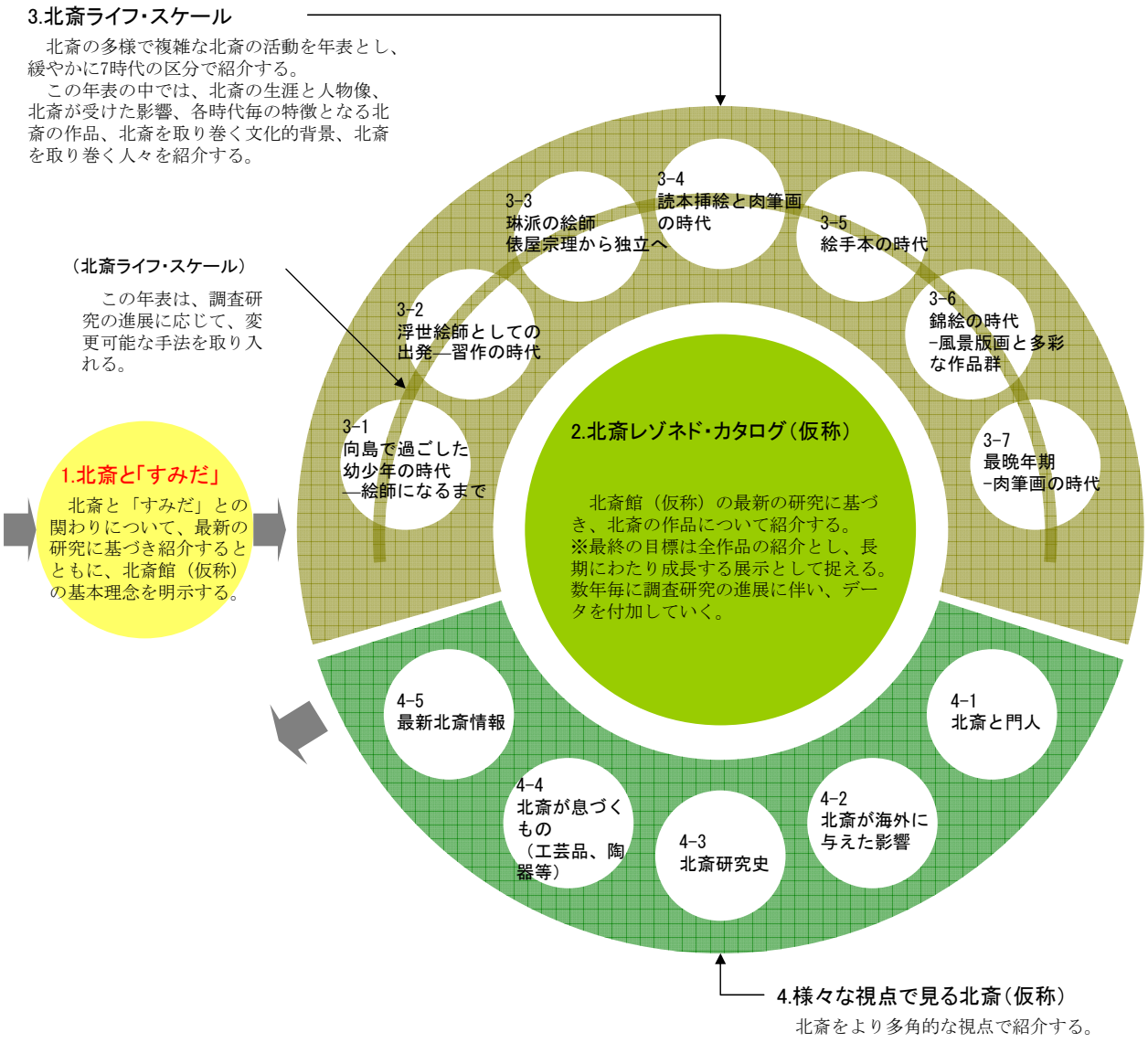
7. 最晩年期-肉筆画の時代
天保5年（1834）頃ー嘉永2年（1849）　75歳から90歳まで

■多角的視点による展示

来館者が北斎やその作品について多様な興味・関心を抱くことができるよう、以下のとおり多角的な視点のテーマを設け紹介を行う。

- **北斎と「すみだ」との関わり**
- **北斎と門人との関わり、門人の作品**
- **北斎が海外に与えた影響**
- **北斎がモチーフとなったもの**（工芸品、陶器、切手、書物等）
- **北斎研究史**
- **北斎に関わる最新情報**

3-5　常設展示構成（案）



3-6　常設展示　3. 北斎ライフ・スケール資料イメージ

1. 向島で過ごした幼少年の時代 —絵師になるまで	2. 浮世絵師としての出発 —習作の時代	3. 琳派の絵師 俵屋宗理 から独立へ	4. 読本挿絵と 肉筆画の時代	5. 絵手本の時代	6. 錦絵の時代 -風景版画と 多彩な作品群	7. 最晩年期 -肉筆画の時代

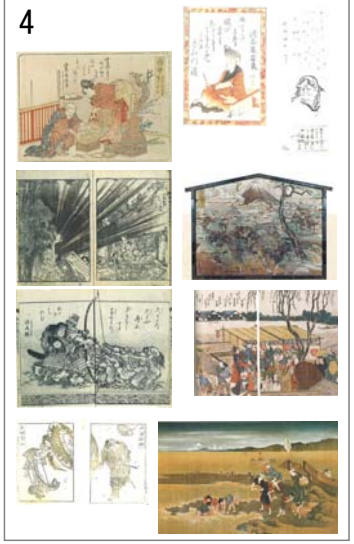
1 2 3 4 5 6 7 8 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90

1

2

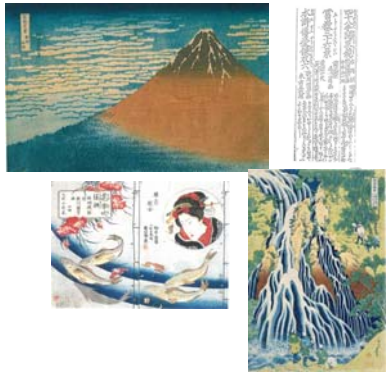
3

4



5

6



7

4. 情報提供事業実施計画

4-1　情報提供事業の概要

■館内での情報提供

北斎に関わる書籍等を収集・分類し、図書室で公開する。

■館外への情報提供

北斎に関わる情報を収集し、自らの研究成果も含めて発信する。

4-2　北斎関係の情報の収集と提供

■情報収集・提供の方針

調査研究によって収集した、北斎とその門人に関する専門的な資料や高度な研究の成果等を、蓄積・分類整理し、一般利用者にもわかりやすい公開用情報に置き換えて提供する。

4-3　提供する情報

■館内での情報提供（図書室）

○図書閲覧の提供

北斎館（仮称）で収集した図書や研究論文等の閲覧サービスを提供する。

○展示情報

展示室で公開されている作品等に関わる情報を提供する。

○資料情報の提供

利用者に対して、館内に設置したパソコンにより、作品・資料・図書等に関する情報を提供する。提供する公開情報は以下のとおりとする。

・図書等情報

北斎に関連する図書、論文等（館蔵品も含む）

・作品情報

北斎作品データ（収蔵品、作品解説）、北斎データ（北斎解説）、浮世絵データ（浮世絵解説、他の作家）

・調査研究情報

北斎と門人の作品データ（国内外の作品、所蔵施設）、北斎と門人の研究・論文データ（国内外）、浮世絵関連書籍データ（国内外）

○レファレンスサービス

豊富な情報を活用し、資料相談に応じるサービスを提供する。

■館外への情報提供（インターネットを利用した情報提供）

北斎館（仮称）独自のホームページを制作し各種情報を発信する。また、関連施設とのリンクを貼り他館情報も提供する。さらに、他館とのデータベースの共有化の可能性について検討する。

ホームページで一般に公開する情報は、図書・展示・資料情報に、下記項目を付加したものとする。

○インフォメーション情報

○周辺地域情報

○その他

友の会（16頁6-4参照）会員や墨田区内の学校等への情報提供を行う。

4-4　情報提供事業の展開イメージ

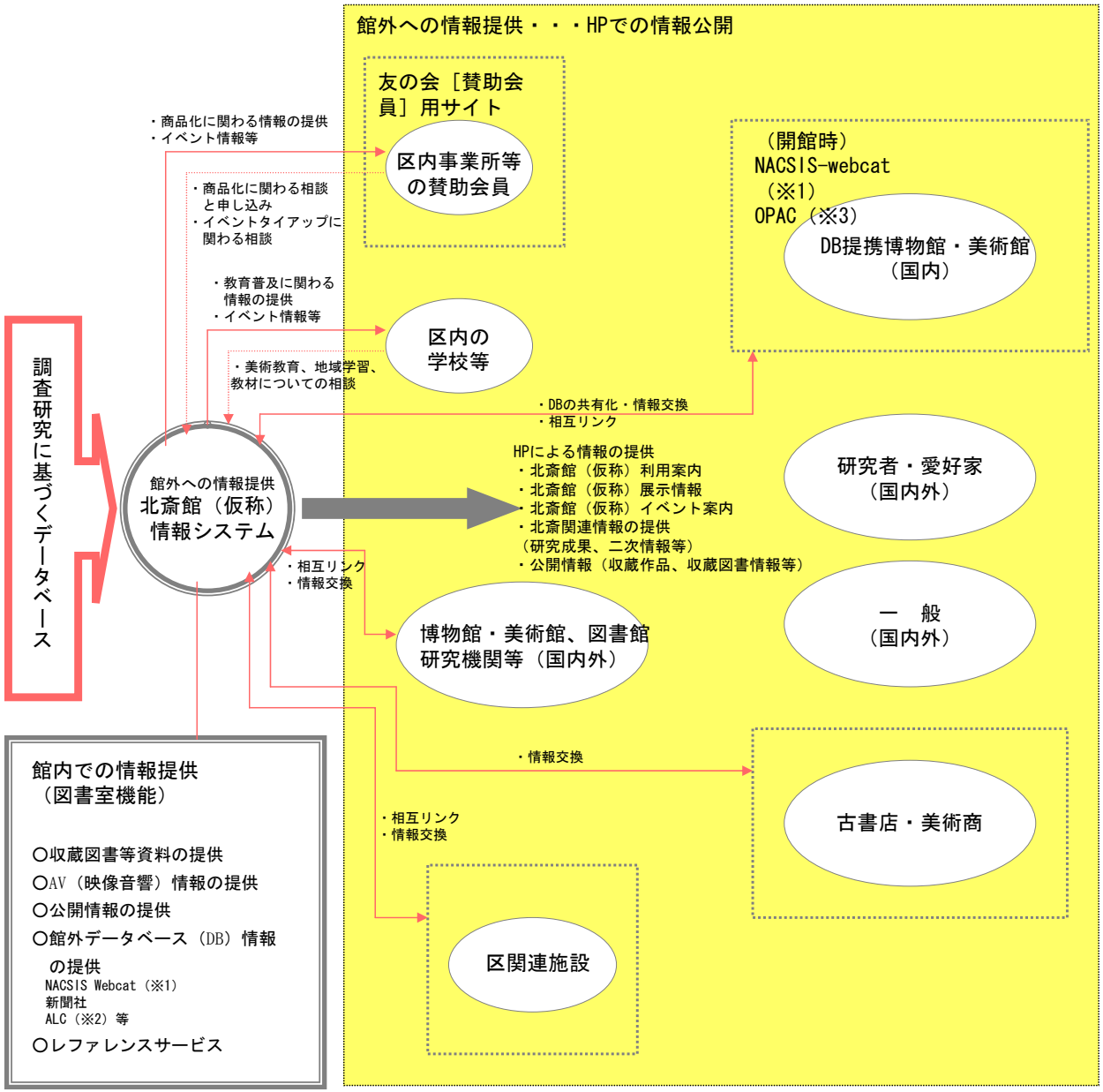
■概念図

＊他の博物館や美術館とのリンクについては、今後検討を続ける。

※1 NACSIS-webcatとは、国立情報学研究所による全国的な図書目録所在情報サービスのことである。

※2 ALC=Art Libraries' Consortium（美術図書館連絡会）とは、東京国立近代美術館、国立新美術館、東京都現代美術館、横浜美術館、国立西洋美術館、東京都写真美術館による相互協力を目指す美術図書館のコンソーシアムのことで、各館の図書等資料を横断的に検索できるデータベースを有する。

※3 OPACとは、図書等資料のデータベースシステムの一つで、現在、北斎館（仮称）の図書資料のデータベース化に使用されている。



4-5　館内での情報提供（図書室機能）

■図書室の位置づけ

○館蔵図書資料の保存・公開のほか、情報の収集・蓄積・発信活動をも行う極めて重要な役割を担う。
○専門研究者にとっては、北斎に関する総合研究センターの役割を担う。
○一般利用者にとっては、北斎に関する窓口の役割を担う。

■収集計画

○開館時の蔵書数と最終目標

開館までの目標蔵書数は4万冊とし、最終的な蔵書目標を5万冊と設定する。

○特徴のある図書の収集

一般的な美術書については、区立図書館との連携を図ることとし、北斎館（仮称）にふさわしい特徴のある図書等の収集を図る。

○資料の所有状況

・ロジャー・キーズ氏資料
書籍3,924点、写真15,165点、写真複写物20,000件
・故ピーター・モース氏資料
書籍等2,344冊
・故楢崎宗重氏資料
書籍等73冊
・その他
約3500冊

○今後の課題

・開架に収蔵する図書、閉架に収蔵する開館後の図書の区分作業を行う必要がある。
・現在の蔵書は古書が中心であり、今後は利用者のニーズに応えていくため、また研究推進のためにも、新刊書・展覧会図録等について計画的に収集する必要がある。

■休室日・開室時間（案）

○休室日

館の休館日に準じる。

○開室時間

館の開館時間に準じる。（9：30～18：00）

○閲覧・複写請求の受付時間

9：30～17：00

■利用料

○入室料

無料（図書室への入室と図書閲覧は無料）

○その他

図書の複写等については、別途料金を徴収する。
※複写できる図書の範囲は、開館までに検討する。
※特にコンディションの悪い貴重書はデジタル化を図り、パソコンでの閲覧サービスを提供する。
※複写作業は、職員が直接対応する。

■利用資格

利用資格は設けないが、図書利用者は身分証を提示の上、所定の用紙に住所・氏名を記入して、開架式書庫のある閲覧コーナーに入室するものとする。
なお、児童の図書室の利用は保護者同伴に限定する。

■図書室での情報提供

○図書閲覧サービス

・利用者は、開架書庫を自由に観覧し、所定の場所で閲覧することができる。
・閉架書庫に収蔵される書籍等については、利用者は案内カウンターで閲覧請求をし、職員から受け取り閲覧する。

○館外貸出しサービス

他の美術館に併設された図書館と同様に、館外への貸出しは行わない。
＊研究や教育といった使用目的が明確な場合は、その限りではない。

○レファレンス・サービス

・利用者の希望に応じて、資料・情報の提供を行うレファレンス・サービスを行う。
・案内カウンターでの職員の対応に加え、利用者がパソコンで自由に検索できるようにする。

○公開情報の検索に関わるサービス

利用者がパソコンで自由に北斎館（仮称）の公開情報や館外データベースを検索することができるサービスを提供する。
※館外データベースの例としては、NACSIS Webcat（10頁欄外※1参照）、新聞社、ALC（10頁欄外※2参照）等がある。ただし、データベースによっては、閲覧に課金が伴うため、今後慎重に検討する。

■図書分類について

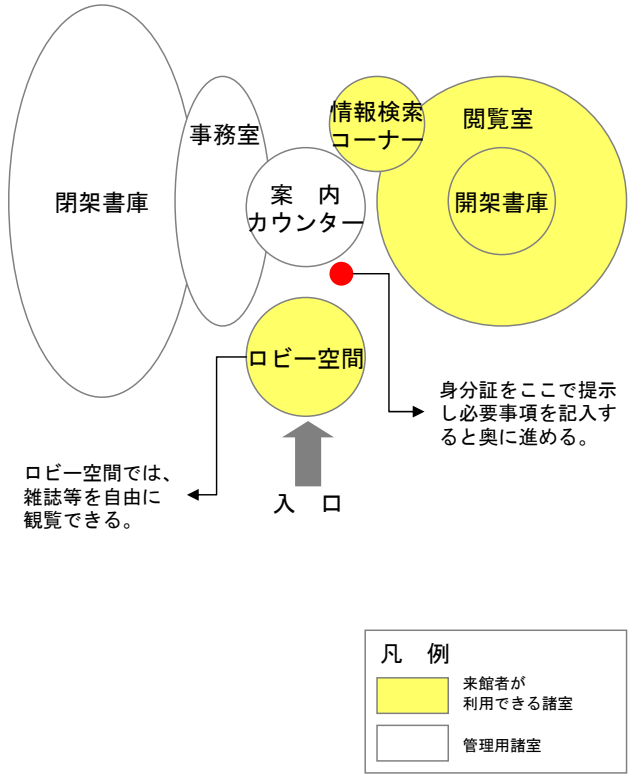
北斎館（仮称）としての特徴ある図書分類を行う。

○分類表（案）

0　総記
1　浮世絵
2　近世を中心とする日本の歴史と文化
3　日本美術

※上記を基本とし、絵師別の分類や、NDC（日本十進分類法）の細分化をイメージした、独自分類を設定する。

■図書室の機能図



4-6　公開情報について

■公開情報の種類

○図書資料情報

○展示関連情報

○調査研究情報

■図書資料情報について

○北斎館（仮称）の図書資料データベース

・資料区分（案）は

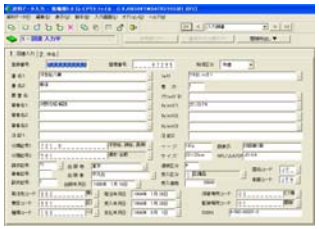
1 図書

2 逐次刊行物

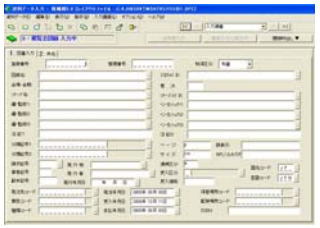
3 展覧会図録

4 売立目録　　等　最大9区分とする。

○図書



○展覧会図録



○図書資料に関わる公開情報

・北斎館（仮称）で収蔵する書籍、研究論文等の資料について、公開情報として、館内のパソコンやホームページを通じて提供する。

・調査研究により明らかになった北斎関連の書籍目録等も、必要に応じて公開情報に追加していく。

○公開情報の項目（案）

・分類番号

・書名

・出版年

・著者名

・出版社名/発刊者名

・書籍等の概要

■展示関連情報について

○北斎館（仮称）の展示に関わるデータベース

現在、収蔵品管理に用いているデータベースを基礎にして、充実化を図る。

○展示に関わる公開情報

近年、情報化の進展により、積極的に所蔵品等の情報をインターネットで公開している美術館が増えており、北斎館（仮称）も同様に積極的に情報公開に努める。

○公開するデータ数について

既に北斎を含む館蔵品のデータベース情報を充実させている館もあることから、それを凌ぐデータ数を目標とする。

○公開が可能なデータについて（開館時）

・ピーター・モース コレクション

・館蔵品の版画（北斎と門人の作品）

・館蔵品の版本（全ての頁をデジタルデータとして公開）

・調査研究の成果の一部

○公開情報の項目（案）

1. 北斎や門人作品データ

・整理番号　　・絵師名

・作品名

・コレクション名（例：ピーター・モース コレクション）

・作品画像

・判型　　・形態

・署名・印章　　・版元名

・制作年　　・所蔵者

・図版掲載文献　　・画賛・文面

・作品解説

2. 北斎データ

常設展示のコンテンツに沿って、北斎の生涯やその作品について、図版や解説で紹介する。

3. 浮世絵データ

浮世絵の歴史、時代背景、代表的な作家とその作品について、図版や解説で紹介する。

■調査研究情報について

調査研究情報は、調査研究の充実に伴い充実していくものである。この成果に関わる公開範囲については、今後より詳細な検討が必要である。

○調査研究に関わるデータベース

・北斎と門人の作品データ（国内外の作品、所蔵施設）

展示関連情報と同様に、現在、収蔵品管理に用いているデータベースを基礎にして充実化を図る。

・北斎と門人の研究・論文データ（国内外）、浮世絵関連書籍データ（国内外）

現在、図書の整理で使用しているデータベースを基礎として充実化を図る。

○公開情報の項目（案）

1. 北斎と門人の作品データ（国内外の作品、所蔵施設）

・整理番号

・絵師名

・作品名

・作品画像（所有者の了解が得られたもの）

・判型

・形態

・署名・印章

・版元名

・制作年

・所蔵者

・図版掲載文献

・画賛・文面

・作品解説

2. 北斎と門人の研究・論文データ（国内外）

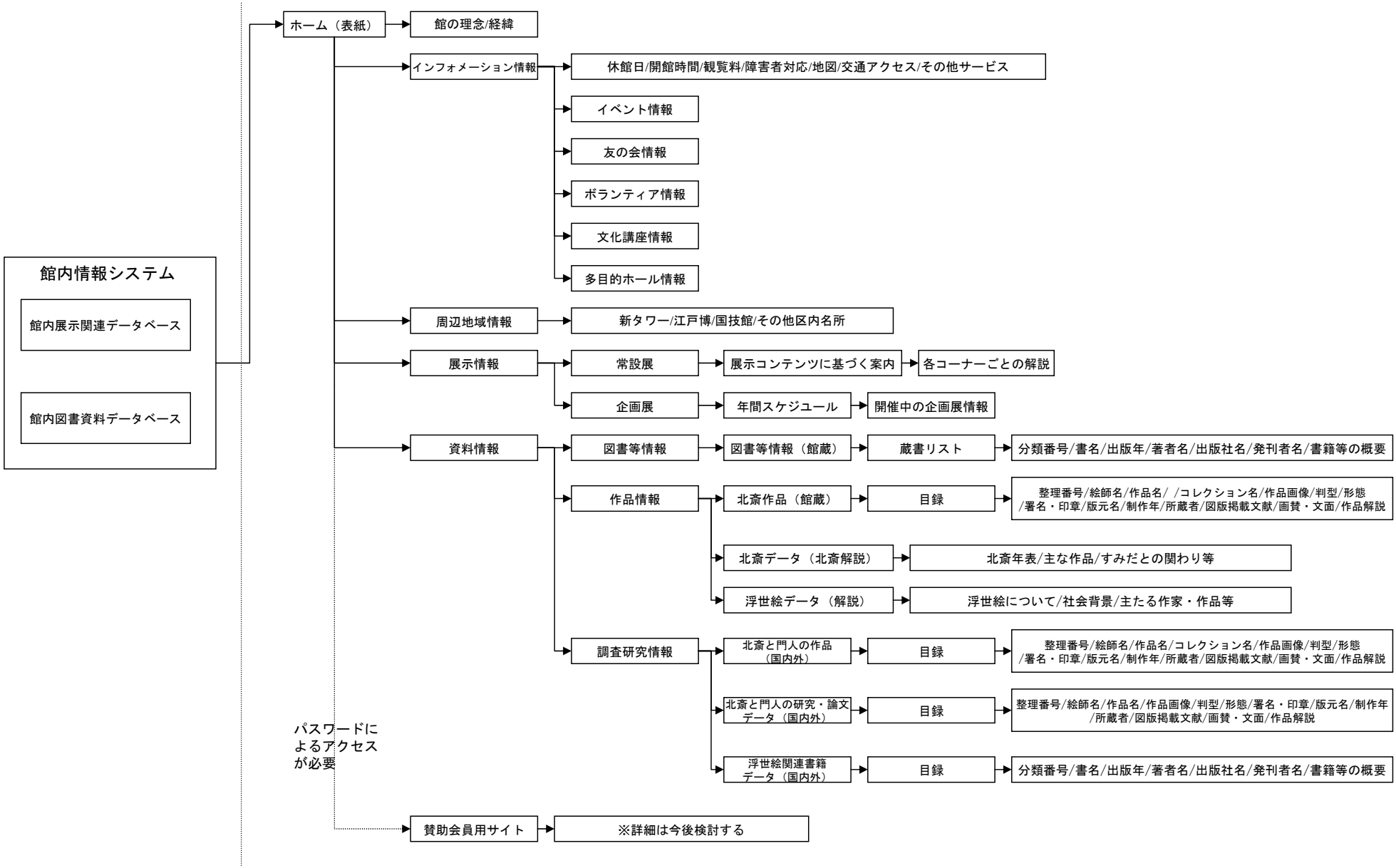
図書資料公開情報に準ずる。

3. 浮世絵関連書籍データ（国内外）

図書資料公開情報に準ずる。

4-7　館内パソコンやホームページでの公開情報について

館内パソコンやホームページで公開する情報のイメージは、下図のとおりである。



5. 教育普及実施計画

5-1　教育普及事業の概要

○北斎についての理解促進及び北斎館（仮称）の認知度向上を図るため、「北斎」や「江戸時代のすみだ」をキーワードとした様々な文化活動や学校教育支援事業を行う。

5-2　教育普及事業の展開

■文化・創造活動機会の創出

「北斎」や「江戸時代のすみだ」をキーワードとしたターゲット別の学習機会を提供する。

○北斎文化講座の実施（成人向け）

北斎や江戸文化等、複数のテーマによる文化講座を実施する。

○ワークショップの開催（児童・生徒向け）

児童・生徒を対象としたワークショップを開催する。

■学校教育の支援

学校等の教育活動を支援する様々なサービス等を提供する。

○ガイダンス映像の制作と視聴の提供

学校等の来館時に利用するガイダンス映像を複数用意し、視聴を可能とする。

○学校関係者向け講座の開催

区内の学校関係者に向けた「北斎」や「江戸時代のすみだ」についての講座を開催する。

○レプリカ（複製資料）貸出しサービス

周辺の学校等に、レプリカ（複製資料）貸出しサービスを提供する。

○ワークシートの作成

学校等の来館時に、観覧の手助けとして、ワークシートを作成し配布する。

○博物館実習生の受け入れ

博物館学を履修する大学生の実習を受け入れる。

5-3　講座室の設置

各種の教育普及活動を行うための講座室を設置する。

5-4　文化・創造活動の開催イメージ

「北斎」や「江戸時代のすみだ」に関わる講座、ワークショップを開催する。

■北斎館（仮称）文化講座（案）

○対象者

区民に限定せず、20歳以上の方とする。

○講座の回数等

半年間で12回コースとし、1回につき2時間程度とする。また、週3日程度、それぞれ異なる3講座を開設する。

開催時間は、就労者に配慮し、19時～21時とする。

※開館時には1講座からはじめ、段階的に充実させていくことも検討する。

○参加定員

参加定員は1回40名とする。

○参加料

講師等への謝金、印刷実費等を徴収する。

○募集等

ホームページや区の広報紙で告知し、募集する。定員を上回る場合は抽選とする。

○講座のテーマ

講師の編成によって、テーマも異なるが、講座内容（案）は以下のとおりである。

・北斎の世界

北斎の生涯、作品、時代背景等について学ぶ講座

・北斎とすみだ

北斎とすみだの関わりについて学ぶ講座

・江戸っ子講座

江戸時代の人々のくらし、風俗、風習等について学ぶ講座

・浮世絵講座

江戸時代の浮世絵がどのようにして作られ、庶民に親しまれていたか、また代表的な作家の作品等を学ぶ講座

・落語講座

江戸落語について、代表的な作品を学ぶとともに落語に挑戦する講座

・西洋美術講座

西洋美術の代表的な作家や作品及び、鑑賞のポイントを学ぶ講座

○講師の考え方

講座の企画・運営に関しては、講師陣のネットワークを形成し、連携を図ることとする。

※浮世絵やすみだの歴史に造詣の深い有識者、区と産学官連携事業を進めている早稲田大学をはじめ、大学教育機関に協力を依頼する。

■北斎館（仮称）ワークショップ（案）

○対象者と開催イメージ

夏休みに、児童・生徒を対象としたワークショップを開催する。1回につき2時間程度とする。

○参加料

講師等への謝金、印刷実費を徴収する。

○ワークショップのテーマ

・北斎漫画で遊ぼう

北斎漫画に出てくる様々な人物等の絵に台詞を付けて、オリジナルの漫画を作る。

・浮世絵に見る江戸時代

浮世絵に描かれた様々な風俗から、江戸時代と今の暮らしの違いを発見する。

○スタッフの考え方

ワークショップの企画・運営に関しては、都内美術大学等との連携を検討する。

5-5　学校教育支援事業の実施

■ガイダンス映像の制作

○映像概要

短時間に一定の理解を得ることができるよう、10ー15分の映像を5本程度制作する。

また、後世に継承するものとして、高精細映像とする。

※観覧場所には、多目的ホール及び講座室を使用する。

○映像のテーマ（案）

・北斎-人と作品

常設展示室のコンテンツを基本とし、北斎の生涯や作品を紹介する。

・北斎とすみだ

北斎と「すみだ」との関わりについて紹介する。

・浮世絵の世界

江戸時代の浮世絵がどのようにして作られたのか、また代表的な絵師や作品を紹介する。

・版画で見る江戸の風景

江戸時代の版画に現れた様々な風景や、現在の光景を対比的に紹介する。

・北斎館（仮称）ができるまで

北斎館（仮称）ができるまでのメーキング映像。北斎の調査研究のみならず、美術館はどのようにして作られるのか、作品を保存するための配慮等を紹介する。

○運用方法

学校団体等の来館時に、ガイダンス映像として視聴を提供する。

○制作スケジュール

開館時までに3本の映像を用意する。開館1年目と2年目に、各1本づつ、計2本の新規制作を行う。また、調査研究の進展に伴い、10年に1本程度の新規制作を行う。

■学校関係者向け講座の実施

○対象者と開催イメージ

区内を中心とする学校関係者を対象とした講座を、年に1回程度開催する。参加人数は1回につき20名とする。

○参加料

無料

○講座のテーマ（案）

・北斎講座

ガイダンス映像の視聴の後、職員のギャラリートークを聞きながら作品を観覧する。

○講師の考え方

館職員による対応とする。

■レプリカ（複製資料）の貸出し

○貸出しサービス

学校の希望により、レプリカ貸出サービスを提供する。

○提供するレプリカ

北斎の生涯は7時代に区分されることから、それぞれの時代を代表する館蔵作品のレプレカを作成する。7枚を1セットとして、5セット程度用意する。

○受付と貸出し

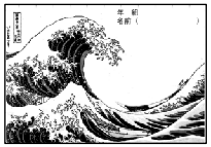
ホームページ・電話・ファックスによる受付とし、図書室の案内カウンターで貸出し及び返却を受け付ける。

■ワークシートの作成・配布

社会科見学等で来館する学校に、ワークシートを配布する。ワークシートは、作品の見所に気づくことができるような構成とする。

※ワークシートは、学校や展示施設で多く取り入れられている手法。
あるテーマについて、子どもが観察や思考を通じて感じ取った内容を文章や絵にすることで、より深い理解を得る事を目的して利用され、その効果は大きいとされている。

〈参考例〉



小学校5ー6年　図画工作「北斎の浮世絵版画」
（日本文教出版『図画工作5・6年下』 ）
「北斎作品を鑑賞しよう」で紹介されているワークシート。絵の一部を消して、子どもたちに自由な発想で絵を描かせ、作者の立場にたって、構図を考えさせるというねらい。

■博物館実習生の受け入れ

○大学で博物館学を学んでいる学生の実習を受け入れ、展示に関すること及び資料の取り扱い方・保存等について、館職員が指導する。
○各大学に対して、受入れについての情報提供をする。

5-6　講座室の機能等

■規模

40名を収容できる講座室を設ける。

■設備

○折りたたみ式テーブル、椅子、40名分。
○映像・音響機器（プロジェクター、スクリーン等）
○パソコン（講師用）
○講師台

■講座室の運用

館の事業で使用しない時には、文化的活動を目的とする団体への貸出しを行うなど、柔軟な運営を行う。貸出規程については、近隣類似施設を参考に検討する。

6.来館者サービス実施計画

6-1　来館者サービスの考え方

○お客様に対するサービスの向上

○地域交流空間の提供

○友の会やボランティア活動の充実

6-2　利用者に対するサービスの向上

■利用しやすさへの配慮

多くの人が気軽に利用できる開館時間の設定等、利用者の立場に立った運営管理を行う。

■音声ガイドによる展示解説

日本語（大人・子ども用）、英語、フランス語、韓国語、中国語の音声ガイドを導入する。

■多彩な利用が可能なサービスと施設等

○情報提供

ホームページ（広報、展示案内）

図書室

○飲食・物販サービス

喫茶店、ミュージアムショップ

■ハンディキャップを持った人への配慮

バリアフリーデザインの検討、観覧料の免除等

6-3　地域交流空間の提供

■多目的ホールの貸出し

区民等の自主的な文化的活動への貸出し

6-4　友の会やボランティア制度の充実

■友の会制度

「自己学習の場」の提供として、友の会を充実させる。

■ボランティア制度

展示解説・案内・利用者サービス等の分野で直接協力してもらえる区民ボランティアを積極的に育成・支援し、北斎館（仮称）への深い愛情と親しみを持ってもらえるようにする。

6-5　各種サービスの内容

■音声ガイドシステム

常設展示の観覧をサポートするために、音声ガイドを導入する。

○音声ガイドの方式

美術館という静謐な環境に鑑み、パーソナルな対応が可能な方式を検討する。

・ICチップ内蔵型音声ガイド機

ガイド機にICチップが内蔵されており、作品に付けられた番号を文字盤で入力すると、イヤホンから作品の解説が聞こえてくる。現行の機器では、最大9ヶ国語への対応が可能で、2時間以上の音声の記録ができるものがある。

○提供するコンテンツ

・テーマ解説と項目解説を音声で提供する。
・それぞれの解説は、原稿用紙300字分程度とする。（音声で流すと1分程度）
・上記の内容を、日本語（大人・子ども用）、英語、フランス語、韓国語、中国語で用意する。

○音声ガイドの貸与について

・音声ガイドは、入口のインフォメーションカウンターで貸出し、回収する。
・音声ガイド機の利用料は無料とするが、預かり金を徴収し、機器の返却時に返還する。

■情報提供

情報提供事業実施計画の項でも述べたとおり、ホームページで館の様々な情報を提供する。また、館内の図書室で、公開情報の検索サービスや図書資料等の書籍の閲覧サービスを提供する。

■飲食サービス

○飲食店舗の設置

軽食やソフトドリンクを提供する飲食施設（喫茶室）を設置する。

○提供するメニュー（案）

・コーヒー、ジュース、日本茶等のソフトドリンク
・区内の銘菓
・区内の料亭等の弁当（予約制）

※美術館内でのガス器具の使用は不可であるため、調理が必要な食事メニューは、すべて外部からの仕入れとする。

○運営形態

業務委託

○配慮すべき事項

・北斎館（仮称）らしさに配慮した空間演出を行う。
・外部からの入口を設けることで運営の自由度を高める。
・「もてなしの心」をサービスの基本とし、フルサービスとする。
・館の記念式典等の飲食の場としての利用も、可能とする。

■ミュージアム・ショップ

○ミュージアムショップの設置

ミュージアム・ショップの設置目的は、以下のとおりである。

・収蔵品に関わる書籍・図録等を販売することにより、北斎研究者及び愛好家の研究等の便宜を図る。
・来館の記念として収蔵物に関連する商品を販売する。

○ミュージアム・グッズについて

北斎館（仮称）のミュージアム・グッズとして、館のコンセプトに合致し、かつアート性の高いオリジナル商品を開発し販売する。北斎や江戸をキーワードとした、商品アイテムを検討する。

〈商品例〉

・図録、書籍
・ポスター
・ポスト・カード
・文房具（レターセット、ノート、マウスパッド、その他）
・服飾（Tシャツ、手ぬぐい、和風小物、その他）
・すみだ伝統工芸品
・食品（和菓子類等）

○地元との連携

近隣商店街や企業、また区内伝統工芸職人との連携による商品開発や、北斎館（仮称）にふさわしい質の高い伝統工芸品の販売等、地元との連携を検討する。

○商品単価

ミュージアム・ショップで取り扱う商品の単価は、500円～1000円のものを中心とする。

○運営形態

テナント誘致を図り、テナント料の徴収及び売り上げに対する歩合の徴収を行う。

○インターネットによる展開

インターネットによる販売を検討する。

○友の会会員への特典

友の会会員が商品を購入する際には、割引を行う。

○その他の配慮

北斎館（仮称）には、国内外の観光客の来館が予測されることから、現金による支払いに加え、クレジットカードの利用も可能とする。また、近年増加している電子マネーの導入についても検討する。

■ハンディー・キャッパーへのサービス

○施設計画での配慮

下記の点に配慮したバリアフリー空間とする。

・段差や起伏のない床面とする。
・車椅子がゆったりと載る事ができるエレベーターを設置する。
・車椅子がすれ違う事のできる通路幅を確保する。
・高齢者や弱視者でも読み易いサインや展示解説の工夫を行う。
・車椅子でも利用できるトイレを配置する。
・ベビーベット及び子どもと一緒に使用できるトイレを設置する。
・車椅子を配置する。

上記に加え、東京都福祉のまちづくり条例やハートビル法に準じた施設計画を行う。

○観覧料の免除

身体障害者手帳・東京都愛の手帳の交付を受けている者及び介助者（2名まで）の観覧料を免除する。

○ホームページでの広報

ハンディーキャッパー用サービスについては、ホームページで広報する。

6-6　多目的ホールの貸出し

■多目的ホール設置の目的

常に活気のある地域に密着した施設として、区民が様々な用途で利用できる多目的ホールを設け、貸出しを行う。
※ただし、館の事業で使用しない時に限る。

■貸出しの対象

区民または区内に勤務する代表者を有する団体とする。

また使用目的は、日本の伝統文化や伝統芸能に関わる文化的催しで、主として営利目的でないものとする。

■施設使用料

使用料の設定は、区内の類似施設等の金額を参考にしながら、施設建設費を基に検討する。

■施設利用イメージ

・落語会
・踊りの会　等

6-7　友の会制度

■友の会設置の目的

○北斎館（仮称）の運営基盤の充実

友の会会費を徴収することで、運営基盤の充実を図る。

○区民の文化創造活動を支援

友の会の様々な特典を通じて、区民が美術に身近に触れたり、文化創造活動をする機会を提供する。

■会員の種別

・友の会会員は、法人を対象とした賛助会員と、一般を対象とした個人会員に大別する。
・賛助会員は、年会費や特典内容の異なる2つのグループに分ける。また、賛助会員には、北斎館（仮称）所蔵作品（写真資料）の転用を認める。
※商品以外の用途（名刺、包装紙、看板等）への利用は無料とするが、商品化を図る際には売り上げの一部を納めてもらうこととする。

■会費（案）

○賛助会員（A）・・・年間50万円以上とする。

○賛助会員（B）・・・年間10万円以上とする。

○個人会員・・・年間5,000円とする。
※会員期間は、入会日より1年間とする。

■募集方法

○賛助会員

・区内の事業所のみならず、文化メセナに関心の高い企業や、広告、放送、出版、公共事業に関わる企業や団体等に積極的に参加を呼びかける。
・開館1年前から積極的に募集活動を行う。

○個人会員

・区の広報紙や館のホームページ等により、開館1年前から募集の告知を行う。

■特典（案）

区　分	特　典
賛助会員A	・北斎館(仮称)発行の図録、会員証(1枚)を進呈。
	・企画展に先立って開催する内覧会に10名まで招待
	・会員証の提示により、同行者2名を含め常設展及び企画展観覧料無料。
	・常設及び企画展の無料招待券を50枚進呈。
	・会員専用のサイトを閲覧でき、北斎館(仮称)所蔵作品の商品化、イベントのタイアップなどの相談ができる。
	・会員証の提示により、ミュージアムショップの商品を割引。
	・北斎館(仮称)ニュースの送付
	・北斎館(仮称)で主催の各種セミナー等への招待
	・会員名をロビーやホームページに掲載。
	・北斎館(仮称)が主催のレセプションに、会員及び同行者2名を招待。
賛助会員B	・企画展招待券、北斎館(仮称)発行の図録、会員証(1枚)を進呈。
	・企画展に先立って開催する内覧会に10名まで招待。
	・会員証の提示により、同行者2名を含め常設展及び企画展観覧料無料。
	・会員専用のサイトを閲覧でき、北斎館(仮称)所蔵作品の商品化、イベントのタイアップなどの相談ができる。
	・会員証の提示により、ミュージアムショップの商品を割引。
	・北斎館(仮称)ニュースの送付
	・北斎館(仮称)で主催の各種セミナー等への招待
	・会員名をロビーやホームページに掲載。
個人会員	・企画展招待券、会員証(1枚)を進呈。
	・会員証の提示により、常設展及び企画展観覧料無料。また同行する家族は団体割引料金を適用。
	・会員証の提示により、ミュージアムショップの商品を割引。
	・北斎館(仮称)ニュースの送付
	・北斎館(仮称)で主催の各種セミナー等への招待
	・会員証の提示により、北斎館(仮称)協力店での買い物を割引。

6-8　ボランティア制度

■ボランティア制度設置の目的

お客様に対するサービス向上と、区民の生涯学習機会の増大を図るために、ボランティアを受け入れ、その活動を支援する。

■活動内容

○インフォメーションカウンターでの案内

○展示室監視業務

○イベント補助業務

■募集人数

30名

■ボランティア保険

各ボランティア活動中の事故に備えて、館の負担でボランティア活動保険に加入する。

■参加条件

○北斎や美術に関心が高い方

○区内在住・在勤の方

○北斎館（仮称）が定める研修を終了した方

○1年間継続して活動が可能な方（より多くの区民に参加してもらえるように、任期は1年とし完全入れ替え制とする）

○月に2～3回活動できる方

■研修内容

ボランティアとして活動するために必要な研修は、以下のとおりである。

○接遇についての研修

○施設についての研修

○北斎館（仮称）の概要、収蔵品についての研修

○北斎、浮世絵についての研修

○企画展ごとの学芸員によるギャラリー・トーク

■募集の時期と方法

・ボランティアは、年に1回募集する。
・募集要項は、館のホームページ等に掲載する。

■報酬

無償

■特典

○年間無料パスの配布

○企画展毎の学芸員によるボランティアを対象としたギャラリー・トークへの参加

○活動に参加したイベントのチケット配布

7. プロモーション・イベント計画

7-1　プロモーション・イベントの基本的方針

■積極的なプロモーション活動で集客をめざす

長きにわたり、北斎館（仮称）の運営を良好に継続していくために、施設の認知度を高め、多くの人々に向けて来館する動機付けを行うことができるよう、積極的なプロモーション活動を行う。

■効果的なプロモーション活動の検討

限られた人員で効果的にプロモーション活動を行うため、誰に、どのようなタイミングで、どのような手法で北斎館（仮称）について伝えていくかを見極める等、戦略的な計画に基づく活動を行う。

■イベントによる話題づくり

イベントで話題を作り、それをマスメディアが取り上げるといったように、プロモーション活動とイベント計画のそれぞれが、相乗効果を上げることのできるよう計画を進める。

■「北斎」「江戸」「すみだ」にこだわった特徴のあるイベント

「すみだ」に生まれる唯一の専門美術館として、文化性の高い、こだわりのあるイベントを打ち出すことで、北斎館（仮称）の独自性を培っていく。

■住民参加型のイベントの提供

住民が参加できるイベントを計画することで、地域のサポーターを増やしていく。

また、地元団体の開催する「北斎祭り」との連動も検討する。

一般的な公共施設の場合、ここで述べているプロモーション計画に類似するものとして、広報計画を検討することが多いが、北斎館（仮称）では、「広報=施策や業務内容等を広く一般の人に知らせる」から、より積極的な働きかけを行う「プロモーション」という言葉を用いてその性格を表すものとする。

プロモーション・・・推進、振興、増進といった意味を持つ。マーケティング的な観点からは、「商業活動」における「推進・増進活動」ということができる。

代表的な活動としては、広告、人的活動（営業担当者等による直接的な働きかけ）、販売促進（イベント等）がある。

7-2　プロモーション活動

■開館前のプロモーション活動

開館前のプロモーション活動は、北斎館（仮称）の認知度向上と、開館に向けての区民の期待度の向上を主たる目的として行う。

また、興味や関心を持続し盛り上げるために、開館3年前ぐらいから、計画の進捗も含め、徐々に館の内容についての情報を発信していく。

■開館後のプロモーション活動

○効果測定

館内で実施するアンケート項目の中に、「何を見て来館したか」等、来館動機を探る項目を作り、どこに対するアプローチが効果的であったかを分析し、それ以降のプロモーション活動に活かしていく。

○継続的なプロモーション活動

一般的な美術館の場合、開設年から年度が経つにつれ、来館者数が減少してしまう傾向にあることから、継続的にプロモーション活動を行い、安定的な来館者数を確保する。

7-3　団体誘致のためのプロモーション活動

集客の根幹となる団体客を誘致するために、下記の対象に対してプロモーションを実施する。

■教育委員会

教育委員会に対して、施設の概要等の説明を行い、学校や生涯学習関連団体への案内を働きかける。

■学校

区内の小・中学校に向けて、施設パンフレットを配布するとともに，学年担任等と積極的な意見交換を行い、社会科見学の際の施設利用を促す。

また、区内にある高等学校にもポスターやパンフレットの配布を行い、来館を促す。

■各種団体

区内商工団体、町会・自治会、老人クラブ等の団体に施設パンフレットを配布し、施設利用を促す。

■旅行代理店

大手旅行代理店等に施設の案内を行い、東京観光ルートや修学旅行の中への取込みの可能性を探っていく。また、その際には区内の小さな博物館との連動や、伝統工芸体験メニューとのセット提案もできるように検討する。

■公共交通機関

区内の公共交通機関に施設の案内を行い、それぞれ独自で展開している広報誌の中で取り上げてもらうよう働きかける。

特に、近接する都営地下鉄大江戸線両国駅、JR両国駅、JR錦糸町駅、東京メトロ半蔵門線錦糸町駅には、駅の地図への名称記載等の働きかけをする。

7-4　外国人客誘致のためのプロモーション活動

北斎は欧米で人気が高いことから、下記団体等に働きかけ、欧米からの観光客の取り込みを図る。

■東京ツーリズム・インフォメーション

東京都が開設するホームページへの施設情報の掲載を依頼する。

http://www.kanko.metro.tokyo.jp/

■東京都観光情報センター、東京都観光案内窓口

施設パンフレットを配置してもらう。

■外国人旅行客の間で有名な宿泊施設

パンフレットを配置してもらう。

■都内ホテル

ホテルやホテル内コンシェルジェに働きかけ、パンフレットを配置してもらったり、案内してもらう。

■ガイドブック

外国人観光客が利用するガイドブックへの掲載を依頼する。依頼先の候補は、以下のとおりである。

○ロンリープラネット

1973年に創立された世界最大の旅行ガイドブック専門出版社。ガイドブックは世界のすべての地域をカバーし、発行タイトル数は650タイトル。

○Michelin Voyager Pratique Japon（ミシュラン・ボワイヤジェ・プラティック・ジャポン）

ミシュランが、日本を訪れる外国人観光客向けにフランス語の実用旅行ガイド初版を2007年4月に発行すると発表。

※国土交通省及び独立行政法人国際観光振興機構（JNTO）、国際観光サービスセンター（ITCJ）と連携して制作。国土交通省は現在推進している「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の一環として、このプロジェクトに協力。

7-5　広報活動

■広報活動について

北斎館（仮称）では、対価が伴う広告を利用するのではなく、マスメディア等を活用した、安価で効果的な広報活動を検討する。

■区の広報媒体の活用

開館3年前から北斎館（仮称）の計画について告知し、区民の北斎館（仮称）に対する興味や関心を醸成する。

■マスコミへの広報活動

マス・メディア等へ情報を発信し、取材を誘致し、より望ましい報道をしてもらえるように、積極的な対応を行う。

例えば、開館に向けての記者発表会の開催や、開館後も定期的にイベント情報の提供を行う。

○さくらケーブルテレビ（J:COMすみだ）

開館前から北斎館（仮称）の計画について、積極的に取り上げてもらうよう働きかける。また、開館後には番組制作に協力し、相互の関係を深める。

○在京テレビ局

在京の各テレビ局に、開館時のプレス発表会案内状を送付するなどして、積極的にPRする。番組制作での協力も視野に入れる。

○新聞社

新聞社に、開館時のプレス発表会案内状を送付するなどして、積極的にPRする。また、巡回展の提携等も検討する。

○外国人記者クラブ

外国人記者クラブに、開館時のプレス発表会案内状を送付するなどして、積極的にPRする。

○出版社

大手出版社に加え、美術系出版社に開館時のプレス発表会案内状を送付するなどして、積極的にPRする。

■他の博物館・美術館との連動

他の博物館や美術館に対しても積極的に広報を行う。また、ホームページでのリンク提携、双方でのポスターの掲示やパンフレットの配置等、様々な連携を検討する。

■関連団体等への広報活動

美術やデザイン関連団体に対して、施設の紹介等を行っていく。美術関連団体の構成員は美術鑑賞家でもあることから、来館者としても期待ができる。また、商業デザイン関連団体は、北斎作品（写真資料）利用者ともなり得る。

7-6　広報ツールの制作

■パンフレット

施設の概要を伝えるためのパンフレットを制作する。具体例としては、開館1年前に関係先への説明のための簡易なものを作成するとともに、開館直前に完成写真も含めたパンフレットを制作する。

■ホームページ

開館1年前までには、北斎館（仮称）のホームページを立ち上げ、計画の進捗、館蔵品情報等を発信していく。また、友の会やボランティアの募集案内も行う。

■ニュース・リリース

マス・メディア向けのニュース・リリース（デジタル・データも含む）を制作する。

7-7　イベントの実施

■開館2年前イベント

『北斎研究』の発行時期に合わせて、その内容に関わる研究発表会と館蔵品によるミニ展覧会を組み合わせたイベントを実施する。

■開館1年前イベント

○特別な企画による展覧会等、話題性のあるイベントを開催する。
○完成予想図やCG（コンピュータ・グラフィックス）によるウォークスルー映像等で、施設についての紹介を行う。
○記者発表会を行う。
○友の会の募集案内を行う。

■開館時イベント

開館時は、開館日を含め、3日間にわたり様々なイベントを実施する。〈企画例〉

○内覧会

展示物の設置がほぼ終了した時点で、マス・メディアや関係先を招待し、内覧会を行う。

○開館式典

館の開館を記念した式典を行う。

○区民招待

参加希望者を募集し、抽選で区民を開館日に招待する。

○開館記念シンポジウム

「北斎」、「すみだ」をテーマとしたシンポジウムを開催する。

○子ども向けワークショップ

『北斎漫画』をテーマとしたワークショップを開催する。

■開館後のイベント

北斎館（仮称）におけるイベントは、調査研究事業や展示事業と密接な関係を持たせる。また下記以外に、地域との連動によるイベントも実施する。

○周年記念イベント

開館記念日に合わせたイベントを実施する。

○企画展と連動したイベント

大規模な企画展を開催する際に、企画展のテーマに合わせたイベントを実施する。

○夏休みイベント

子どもを対象とした、イベントを実施する。

8.VI計画

8-1　VI（ビジュアル・アイデンティティー）の構築

■VIの統一化

北斎館（仮称）の基本理念を視覚的に表すVI（ビジュアル・アイデンティティー）の統一化を図り、ブランド・イメージを形成する。

■VIのデザイン化

○シンボルマーク
○シンボルロゴ
○シンボルカラー

■VIの展開

○サイン
○建築物または展示での色彩計画等
○パンフレット、リーフレット
○ホームページデザイン
○名刺
○名札
○封筒類
○制服　等

■VIのモチーフ

北斎の肖像画等をモチーフとして、デザイン化を図る。

8-2　ネーミング計画

■名称に求められる条件

北斎館（仮称）の名称は、以下の条件に合致したものとする。
○館の基本理念や施設イメージとの合致
○「すみだ」らしい（地域性、上位計画等）
○親しみやすい（受容性、親近性）
○覚えやすい（記憶性）

■名称（案）

（和名）

すみだ 北斎美術館

（英名）

Hokusai Institution of Sumida City

※注「institution（インスティテューション）」
；学会、協会、団体、公共施設（学校・病院・協会など）

■名称の決定時期

建設地が決定した後、速やかに正式名称を決定・公表する。

9. その他事業計画

9-1　交通インフラについて

■現況の交通アクセス

○両国と錦糸町からのアクセス

建設予定地である亀沢地区は、都営地下鉄大江戸線両国駅やJR総武線両国駅・錦糸町駅から、徒歩で10分～15分程の距離にある。

○新タワー予定地へのアクセス

亀沢地区から徒歩で錦糸町に行き、錦糸町から新タワー予定地（押上・業平橋地区）までは、東京メトロ半蔵門線あるいは都営バスを利用する。いずれの場合も、所要時間は30分程度である。

■各拠点との交通インフラの整備

○コミュニティー・バスの運行

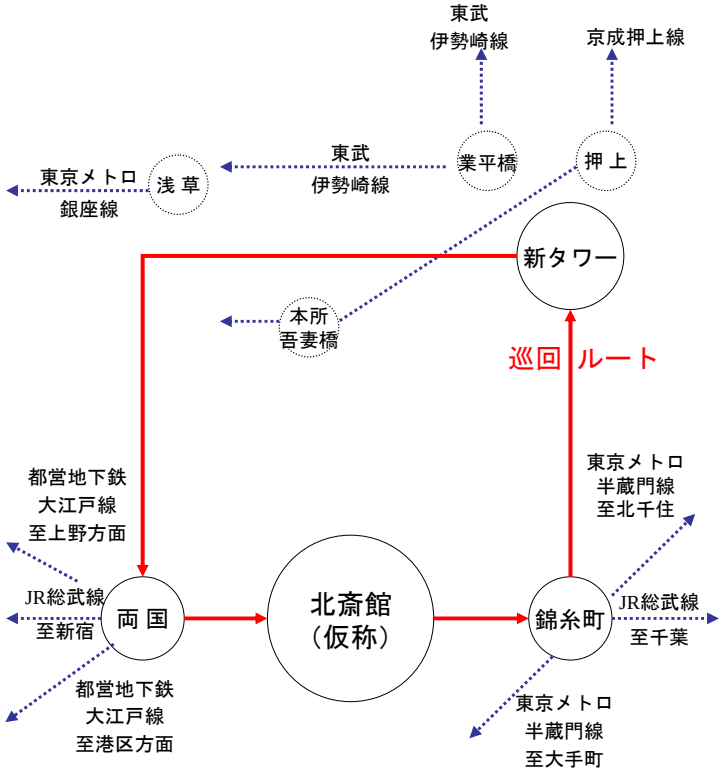
北斎館（仮称）と新タワーや江戸東京博物館等の各拠点をコミュニティー・バスで結ぶことで、交通インフラを充実させ、集客力を高め、点から面へと地域を活性化する。

※コミュニティー・バスとは、自治体が住民の移動手段を確保するために運行する路線バスで、交通空白地帯において公共交通サービスを担う役割に加え、主要施設や観光拠点を巡回する等、多様な形態で運行されている。

本区周辺の事例としては、台東区の「めぐりん」、江東区の「しおかぜ」、葛飾区の「レインボー葛飾」がある。

○コミュニティー・バスで結ぶ拠点（案）

コミュニティー・バスで結ぶ拠点は、下図のとおりである。



○具体化に向けて

今後、区の上位計画等との連動を図り、路線設置に向けて充分な検討を行い、北斎館（仮称）の開館に合わせた運行が可能となるように計画を進める。